

第 18 回伊那新校再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 9 月 24 日（火）

18 時～19 時 30 分

会場：長野県伊那合同庁舎 講堂

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 新構成員紹介

4 会議事項

（1）第 17 回伊那新校再編実施計画懇話会のまとめ

（2）伊那新校の校舎整備等スケジュール及び統合の方法について

（3）その他

5 その他

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第18回 伊那新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

◎印：座長 ○印：令和6年4月からの構成員・事務局員

区分	氏名	所属等
自治体	伊藤 徹	伊那市 副市長
	片桐 健	飯島町教育委員会 教育長
	◎本多 俊夫	駒ヶ根市教育委員会 教育長
	田中 章	上伊那広域連合 前事務局長
	唐澤 直樹	上伊那広域連合 事務局長
産業界	田畑 和輝	伊那商工会議所 監事
	春日 俊也	駒ヶ根商工会議所 副会頭
	黒河内 貴	株式会社仙醸 代表取締役社長
学識 経験者	片山 茂	信州大学農学部 教授
	高橋 百合子	長野県看護大学 准教授
地域	河野 宏	一般社団法人上伊那医師会 長野県学校医委員会委員
	中山 佳代	元上伊那地域の高校の将来像を考える協議会 委員
	布山 澄	上伊那地域振興局 局長
同窓会	山田 益	伊那北高等学校同窓会 運営委員会委員長
	下島 典子	伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会 会長
P T A	○小島 亜矢子	伊那北高等学校 P T A 副会長
	○加藤 茂	伊那弥生ヶ丘高等学校 P T A 副会長
	○浅川 直矢	上伊那 P T A 連合会 参与
学校 関係者	○下島 弘子	上伊那小学校長会 会長（伊那市立高遠小学校長）
	○桐山 清一	上伊那中学校長会 会長（南箕輪村立南箕輪中学校長）
	○小池 景子	伊那養護学校 校長
統合校 関係者	鈴木 空芽	伊那北高等学校 生徒代表
	大川 明水	伊那北高等学校 生徒代表
	森下 裕太	伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表
	小林 紗菜	伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表
	埋橋 浩	伊那北高等学校 校長
	○松村 真一	伊那北高等学校 教諭
	松村 明	伊那弥生ヶ丘高等学校 校長
	唐澤 功	伊那弥生ヶ丘高等学校 教諭

事務局

伊那北高等学校		伊那弥生ヶ丘高等学校		高校再編推進室	
○千葉 亮	(教頭)・事務局長	佐々木 俊秀	(教頭)・副事務局長	原 多恵子	主幹指導主事
○松村 真一		唐澤 功		○高橋 正俊	主任指導主事 (伊那新校主担当)
倉石 典広		竹松 ゆかり		○内山 みのり	主任指導主事 (伊那新校副担当)
桐生 祐治		春日 雅博		○原 周一郎	主任指導主事 (伊那新校副担当)
齋藤 仁美		常田 真由美			
		瀧澤 洋貴	I C T 担当		

第 17 回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日時・会場	令和6年（2024年）3月13日（水） 18時00分～19時45分 長野県伊那合同庁舎講堂
出欠席	懇話会構成員 28名出席（欠席者（敬称略）：原 潤） 事務局（高校再編推進室：宮澤室長、中島主幹指導主事、原主任指導主事、田中主任指導主事、伊那北高校4名、伊那弥生ヶ丘高校4名）
傍聴者	傍聴4名、報道5社（オンライン含む）
会議事項	（1）第16回伊那新校再編実施計画懇話会のまとめについて （2）伊那新校の校舎整備及び開校時期・統合の方法について （3）NSDプロジェクトの進捗状況について
当日資料	第17回懇話会次第、第17回伊那新校再編実施計画懇話会構成員名簿、第16回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ（資料1）、伊那新校の校舎整備及び開校時期について（資料2）、（別紙）伊那新校 校舎整備等スケジュール（資料3）、統合の方法について（資料4）、会場配置図、NSDプロジェクト進捗状況 基本設計中間報告（別冊資料）、伊那新校平面計画（別紙）

主な内容（〇意見及び発言、⇒質問等に対する回答）

（1）第16回伊那新校再編実施計画懇話会のまとめについて

・質疑、意見なし

（2）伊那新校の校舎整備及び開校時期・統合の方法について

・校舎整備及び開校時期並びに統合方法について、資料を基に県教育委員会の考え方を説明。

〇考え方に至った経緯について丁寧に説明してほしい。NSD会議等開かれず、唐突感がある。

⇒NSD会議は基本計画策定に向けて設置したもの。本日はじめて県教委の考えを公表。意見を基に検討したい。

〇伊那弥生ヶ丘高校で2校が一緒に過ごすことについて問題はないのか。

⇒伊那北高校校地を無人化し、工事の騒音や安全面等を考慮して、両校が一緒に生活する方法を検討した。

〇市道伊那北学校線（通称一万円道路）の整備を新校舎工事開始の令和7年度に向けて、令和6年度に実施する計画があるがどう考えているか。

⇒伊那市建設部には説明が懇話会后になってしまいが、考え方について説明していく。

〇これからの検討で変更できるもの、できないものは何か。

⇒変更したくないことは、今まで丁寧に議論を重ねてきた配置計画や平面計画である。

〇伊那弥生ヶ丘高校に仮設校舎を建設する場合、どこに建てる予定か。仮設校舎より新校舎に費用をかけたい。

⇒校庭の一部を想定。仮設校舎建設費にできるだけ費用をかけないように考えた結果が今回示した案である。

〇伊那弥生ヶ丘高校は敷地が狭い。仮設校舎を建てる余地があるのか。仮設校舎整備の検討は充分か。また、伊那北高校の理数科の課題研究、両校の探究活動の充実のための十分な仮設校舎が整備できるか。

⇒細かな検討はこれからである。今までの学びができるよう仮設校舎を含めて整備していきたい。

〇令和9年度に向けて計画していることで回答できることはあるか。

⇒両校において、令和8年度から新校に向けて両校のカリキュラムをそろえるよう検討している。

〇いろいろな懸念があるが、高校教育課・高校再編推進室としての方針は変えられないということか。

⇒今回初めて考え方を示したところ。出された疑問点への考えを伝えながら最終的な決定になると認識。

〇受検生に選ばれるような準備をしてほしい。工事に該当する入学生には丁寧に説明してほしい。

〇今回出た工事計画により、他地区へ進学を考える子どもたちが増えないように情報提供と共に説明願いたい。

〇マスコミからどのように伝わるかが懸念される。丁寧に説明を願いたい。

〇大町岳陽高校では工事が遅れたと聞いている。伊那新校もそうならないようにしてもらいたい。

〇統合方法は、一斉統合でよいと思う。統合に向けた早い情報提供をお願いしたい。

<以下、意見記入用紙からの主な意見>

〇平面計画は決定という前提で考えると仮設校舎での学習は避けられないと思う。

（次ページあり）

- 初めての試みで様々な課題があると思うが、良い形でまとまっていくことを願う。
- 生徒のみなさんに不安がないように進めてほしい。
- 2校が両立する際に、各校の行事等も含め、特色が失われることがないように願う。
- 工事期間にある程度の不便があるのは理解できるが、そのために優秀な生徒の流出は避けたい。
- 地域への説明をできるだけ早く、丁寧に行ってほしい。R6年度の中学校の生徒・教員が困らないように。
- 仮設校舎を使いながら、2校がいっしょに学習・生活できるか、想定した具体的な資料・提案が求められる。
- 情報が少ないため理解や議論が深まらない。新校の教育内容と共に工事中の教育内容の情報提供を願う。
- R10を待たずに両校の交流を進める仕掛けは、生徒の気持ちを含め、スムーズに進められるように願う。
- 仮設校舎建設中の伊那弥生ヶ丘高校の生徒への安全性の配慮の検討を願う。

(3) NSD プロジェクトの進捗状況について

- ・基本設計業務で学校の教職員と検討してきた平面計画について資料と図面を基に考え方を説明。
- 現在の図書館のように一人で静かに学べる場所はあるか。防災の観点はどうか。
⇒一人で静かに学べる環境は校舎内のいろいろな場所に配置していく。防災面については法規に則り計画する。
- 保健室は大体育館に近いが小体育館からは遠い。グラウンド等からの距離についてどう考えるか。
⇒保健室は落ち着いた雰囲気も必要のため現在の位置としている。緊急時はどこからも救急車は寄り付ける。
- 部室を多めに作ってもらいたい。
⇒平面計画上は30室だが、基準の40室になるよう建物内に整備する計画
- 教室は南向きにないといけないと聞いたことがある。平面計画ではあらゆる方向を向いているがどうか。
⇒人工照明も含めて机上の照度は確保する。温熱環境としてもエネルギーが外気に逃げづらい構造とする。
- これから部活動を検討していく中で必要な部屋を整備するとともに特徴的な部活動の部屋の整備を願う。
- 配置や平面計画が将来よかったと言えるようにしてもらいたい。

<以下、意見記入用紙からの主な意見>

- 魅力的なプランでよいと思う。
 - 教職員・生徒の意見を取り入れて進めてほしい。
 - 教科ステーションの使い方、広さなど、教職員と確認の上進めてほしい。
 - 仮設の校舎も充実したものにしてほしい。
 - 多様な生徒に対応する、オープンな空間、クローズな空間のメリハリを持った空間づくりをしてほしい。
 - 今までの高校にないような空間にワクワクする。中学生に知ってもらいワクワクしてもらいたい。
 - 音楽系の部活動が他に迷惑をかけず、のびのび活動ができる空間を用意してほしい。
- ・その他会議の運営に関する意見
 - 懇話会のおおまかなスケジュールや扱うテーマについて提供してほしい。
 - 事前連絡等を工夫することで懇話会での意見交換が充実すると思う。

伊那新校の校舎整備等スケジュールについて（3月からの経緯）

高校教育課・高校再編推進室

■第17回伊那新校再編実施計画懇話会(令和6年3月13日)

高校再編推進室より「校舎整備及び開校時期・統合の方法について」の説明（以下、案③とする）

- ・伊那新校の新校舎の建設が令和9年(2027年)度に開始し、完了は開校2年後の令和11年(2029年)度末になること
- ・建設期間中、両校や伊那新校の生徒は伊那弥生ヶ丘高校の校地で学ぶこと
- ・一斉統合を行うこと

→「唐突感がある」、「両校と一緒に学校生活や学校行事を行うことに不安がある」、「現場の声を大事にしてほしい」、「丁寧な情報共有をしてほしい」などの意見が出る

■上伊那3団体から要望書の提出(令和6年5月9日)

「上伊那広域連合」、「伊那商工会議所・駒ヶ根商工会議所、長野県商工会連合会上伊那支部」、「上伊那市町村教育委員会連絡協議会」の3つの団体から「スケジュール及び工事等の再検討」、「新校の学びの早急な検討」、「丁寧な情報提供」などを求める「伊那新校（仮称）に関する要望書」を知事、教育長に提出

→懇話会での意見や要望書をふまえ校舎整備等スケジュールを再検討

■「案③の1年前倒し案」(以下、案②とする)を両校職員へ説明(5月下旬～6月上旬)

3月の懇話会で発表した案から1年前倒しした案を両校に対して職員会で説明

→在校生への影響が大きい（特に現在の1年生が3年次に伊那弥生ヶ丘高校の校地に移らなければならないことについて入学前に説明していない）ことから否定的な意見多数

■伊那弥生ヶ丘高校の文化祭で1学年ルーム長会から「1年生の思い」の掲示発表(6月下旬)

「学校生活が変わってしまうかもしれないことへの不安」や「詳しい情報を求める」などの意見発表

■「伊那北仮設ローリング計画案」(以下、案①とする)の検討(7月)

両校の生徒及び教職員の意見等を鑑み、伊那北高校の校地に仮設校舎を建設して、既存校舎を活用しながら解体工事、新築工事を行うローリング計画（年次統合）案を設計チームと検討開始

■両校の1学年の生徒・保護者、教職員を対象にアンケート調査の実施(7月下旬)

案①から案③までの比較表を提示して、最適案を選択

→アンケート調査の結果は別紙参照

伊那新校 校舎整備等スケジュールについて (案①「年次統合」のイメージ)

新校舎(西棟) 部分供用

伊那北校地

伊那弥生ヶ丘校地

R6年度
(2024年度)

伊那北 (R4入学)

3年

伊那弥生ヶ丘 (R4入学)

伊那北 (R5入学)

2年

伊那弥生ヶ丘 (R5入学)

伊那北 (R6入学)

1年

伊那弥生ヶ丘 (R6入学)

R7年度
(2025年度)

伊那北 (R5入学)

3年

伊那弥生ヶ丘 (R5入学)

伊那北 (R6入学)

2年

伊那弥生ヶ丘 (R6入学)

伊那北 (R7入学)

1年

伊那弥生ヶ丘 (R7入学)

R8年度
(2026年度)

伊那北 (R6入学)

3年

伊那弥生ヶ丘 (R6入学)

伊那北 (R7入学)

2年

伊那弥生ヶ丘 (R7入学)

伊那北 (R8入学)

1年

伊那弥生ヶ丘 (R8入学)

R9年度
(2027年度)
10月以降
西棟供用開始

伊那北 (R7入学)

3年

伊那弥生ヶ丘 (R7入学)

伊那北 (R8入学)

2年

伊那弥生ヶ丘 (R8入学)

伊那北 (R9入学)

1年

伊那弥生ヶ丘 (R9入学)

開校

R10年度
(2028年度)

伊那北 (R8入学)

3年

伊那弥生ヶ丘 (R8入学)

伊那北 (R9入学)

2年

伊那弥生ヶ丘 (R9入学)

伊那新校 (R10入学)

1年

R11年度
(2029年度)

伊那北 (R9入学)

3年

伊那弥生ヶ丘 (R9入学)

伊那新校 (R10入学)

2年

伊那新校 (R11入学)

1年

R12年度
(2030年度)
10月
全校舎竣工

伊那新校 (R10入学)

3年

伊那新校 (R11入学)

2年

伊那新校 (R12入学)

1年

伊那新校 校舎整備等スケジュールに関するアンケート調査の概要

高校教育課・高校再編推進室

調査期間 令和6年7月23日(火)～8月3日(土)

調査対象 伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校 1学年の生徒・保護者、教職員

調査方法 学校連絡網サービスで Google フォームを配信

主な質問 校舎整備等スケジュールの案①～案③の比較表を提示して、最適案を選択

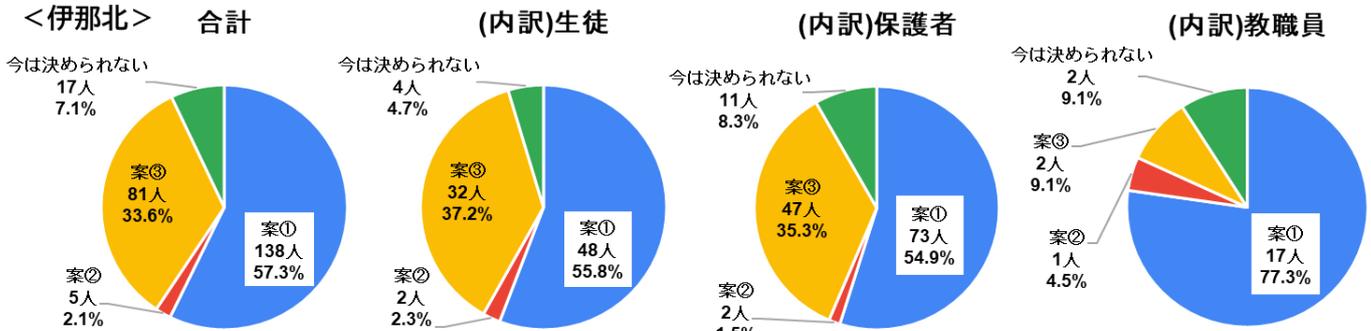
校舎整備等スケジュールの案①～案③の比較表(抜粋)

案	仮設校舎建設場所	統合方法	仮設校舎利用開始時期	新校舎完成時期	工事期間(仮設校舎建設・旧校舎解体・新校舎建設)
① (ローリング計画案)	伊那北	年次	R8年10月頃～	R13年6月頃 ※R11年1月部分供用開始	R7年9月～R13年5月 (5年9ヶ月)
② (案③の1年前倒し案)	伊那弥生ヶ丘	一斉	R8年4月頃～	R11年2月頃	R7年9月～R11年1月 (3年5ヶ月)
③ (3月懇話会提案)	伊那弥生ヶ丘	一斉	R9年4月頃～	R12年2月頃	R8年9月～R12年1月 (3年5ヶ月)

アンケート結果

	伊那北			伊那弥生ヶ丘			合計		
	配信数	回答者数	回答率	配信数	回答者数	回答率	配信数	回答者数	回答率
生徒	234	85	36.32%	195	104	53.33%	429	189	44.06%
保護者		133			102			235	
教職員	62	22	35.48%	57	20	35.09%	119	42	35.29%
合計		240			226			466	

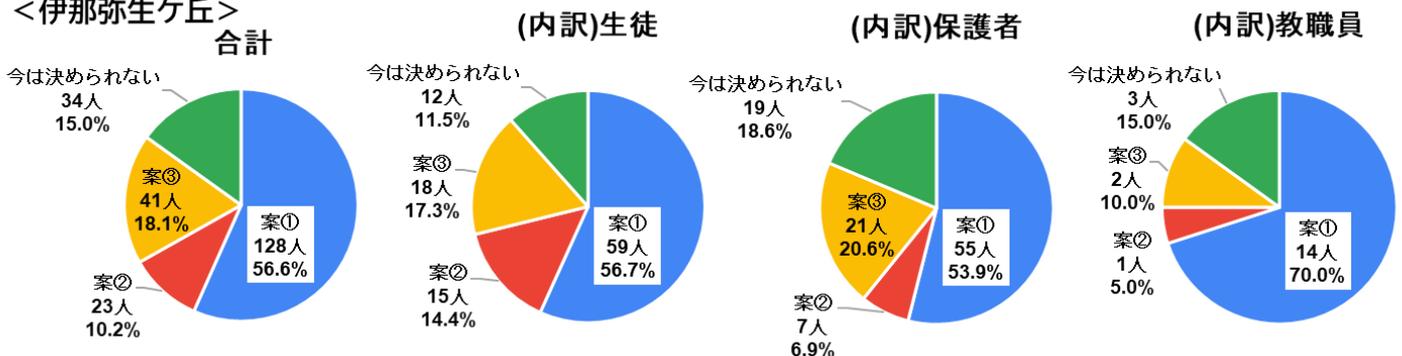
<伊那北>



【考察】

全体では案①の割合が最も高い(57.3%)。内訳の生徒、保護者、教職員についても案①の割合が最も高い。また、次いで案③の割合が高い(33.6%)。内訳でも、案③生徒の割合(37.2%)、案③保護者の割合(35.3%)が案①に次いで高い。これは伊那弥生ヶ丘の案③の割合と比較しても高い傾向にある。

<伊那弥生ヶ丘>



【考察】

全体では案①の割合が最も高い(56.6%)。内訳の生徒、保護者、教職員についても案①の割合が最も高い。

伊那新校に関する高校再編推進室からのアンケート調査の質問内容

【1学年の生徒・保護者、教職員の皆様】 ※両校分けてアンケートを配信

令和10年度、伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校が統合し、伊那新校が開校します。新校舎の建設工事中、両校の生徒がいつから、どこで、どのような学校生活を送るかについて、現在検討しています。皆様のご意見を今後の校舎整備スケジュール等に反映させるため、是非、以下アンケートにご回答ください。【別紙2】比較表 ※別紙参照

【質問1】あなたの所属を教えてください。（回答必須）

- 生徒
- 保護者
- 教職員

【質問2】伊那新校施設整備の中で、あなたが大切だと思うポイントを以下の選択肢から2つ選んでください。（複数回答）

- 入学した高校の校地で学校生活が送れること（伊那北向け質問項目）
※校地移動の有無（伊那弥生ヶ丘向け質問項目）
- 新校舎の利用開始時期
- 全体の工事期間の長短
- 仮設校舎の利用期間の長短
- グラウンドを含む体育施設が利用できること
- 学習環境
- 建設コスト
- その他（自由記述）

【質問3】比較表の案①の良い・悪いポイントを教えてください。（自由記述）

【質問4】比較表の案②の良い・悪いポイントを教えてください。（自由記述）

【質問5】比較表の案③の良い・悪いポイントを教えてください。（自由記述）

【質問6】将来の後輩の過ごし方も考慮した上で、3案のうち、どの案が伊那新校施設整備に係る工事計画として最もよいと考えますか。（回答必須）

- 案①
- 案②
- 案③
- 今は決められない

【質問7】その他、伊那新校施設整備についてご意見をお聞かせください。（自由記述）

伊那新校 校舎整備等スケジュールに関するアンケート調査の報告

調査期間 令和6年7月23日(火)～8月3日(土)

調査対象 伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校 1学年の生徒・保護者、教職員

調査方法 学校連絡網サービスでGoogleフォームを配信

調査目的

- ・案①(ローリング計画案)、案②(案③の1年前倒し案)、案③(3月懇話会提案)の比較表を提示して、調査対象者にメリットとデメリットを認識してもらう。
- ・該当の生徒や保護者、教職員の要望や意見を正確に把握して、校舎整備等スケジュールに反映する。

1. アンケート回答結果

	伊那北			伊那弥生ヶ丘			合計		
	配信数	回答者数	回答率	配信数	回答者数	回答率	配信数	回答者数	回答率
生徒	234	85	36.32%	195	104	53.33%	429	189	44.06%
保護者		133			102			235	
教職員	62	22	35.48%	57	20	35.09%	119	42	35.29%
合計		240			226			466	

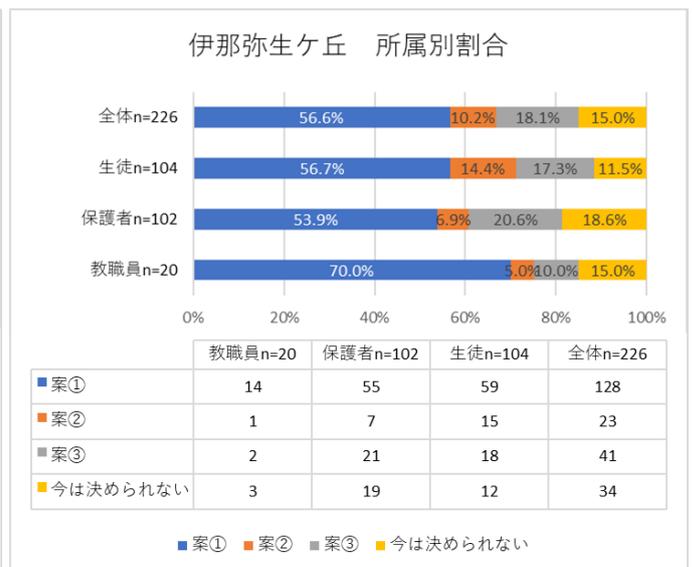
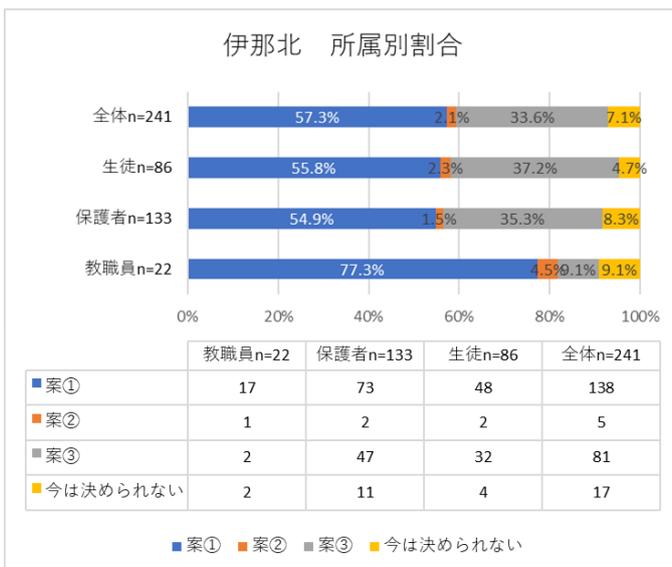
2. クロス集計結果 「1.所属」と「6.案選択」

[伊那北 所属別割合]

- ・全体では案①の割合が最も高い(57.3%)。内訳の生徒、保護者、教職員についても案①の割合が最も高い。
- ・次いで案③の割合が高い(33.6%)。内訳でも、案③生徒の割合(37.2%)、案③保護者の割合(35.3%)が案①に次いで高い。これは伊那弥生ヶ丘の案③の割合と比較しても高い傾向にある。

[伊那弥生ヶ丘 所属別割合]

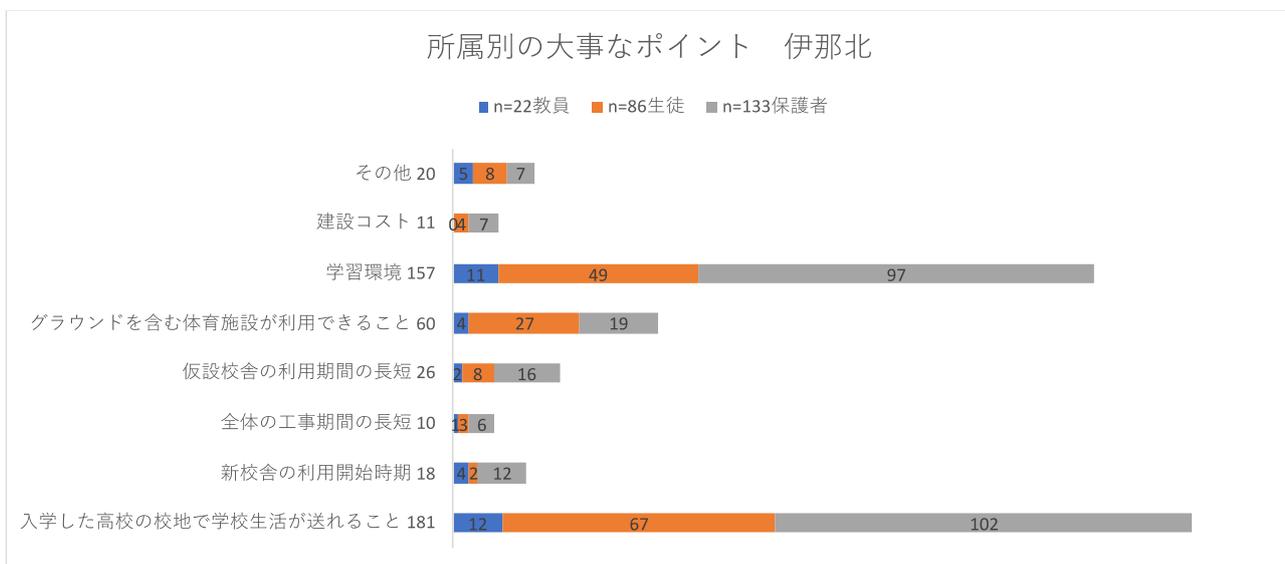
- ・全体では案①の割合が最も高い(56.6%)。内訳の生徒、保護者、教職員についても案①の割合が最も高い。



3. クロス集計結果 「1.所属」と「2.大事なポイント」

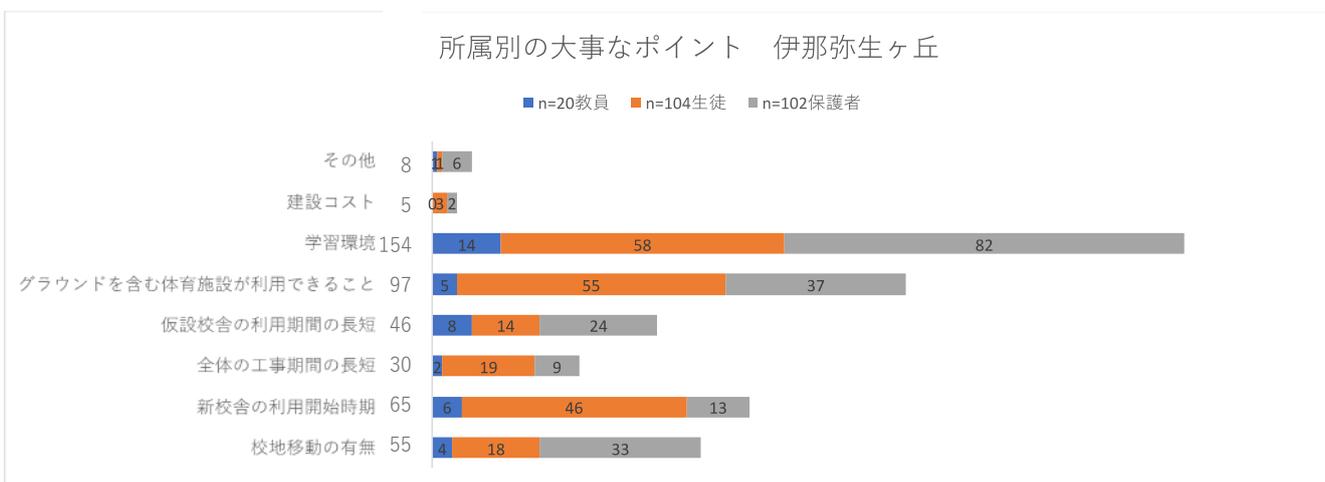
[伊那北]

- ・生徒と保護者の意見として、「入学した校地での学校生活を送れること」が最も多い(181)。
- ・次いで、「学習環境」(157)、「グラウンドを含む体育施設が利用できること」(60/うち生徒 27)が多い。



[伊那弥生ヶ丘]

- ・「学習環境」を大事する意見が最も多く(154)、次いで「グラウンドを含む体育施設が利用できること」(97/うち生徒 55)、「新校舎の利用開始時期」(65/うち生徒 46)について、生徒からの意見が多い。



4. クロス集計結果 「1.所属」と「3.案①(ローリング計画案)の良い・悪いポイント」

[案①長所 伊那北]

- ・「各校地での学校生活」を長所としてあげている(121)。

[案①長所 伊那弥生ヶ丘]

- ・「各校地での学校生活」を長所としてあげている(47)。
- ・次いで、「弥生への影響が少ない」(33)が多く、「両校の生徒が別々に学ぶ」(6)、「入学した高校での卒業」(15)のような、同様の意見が多い。

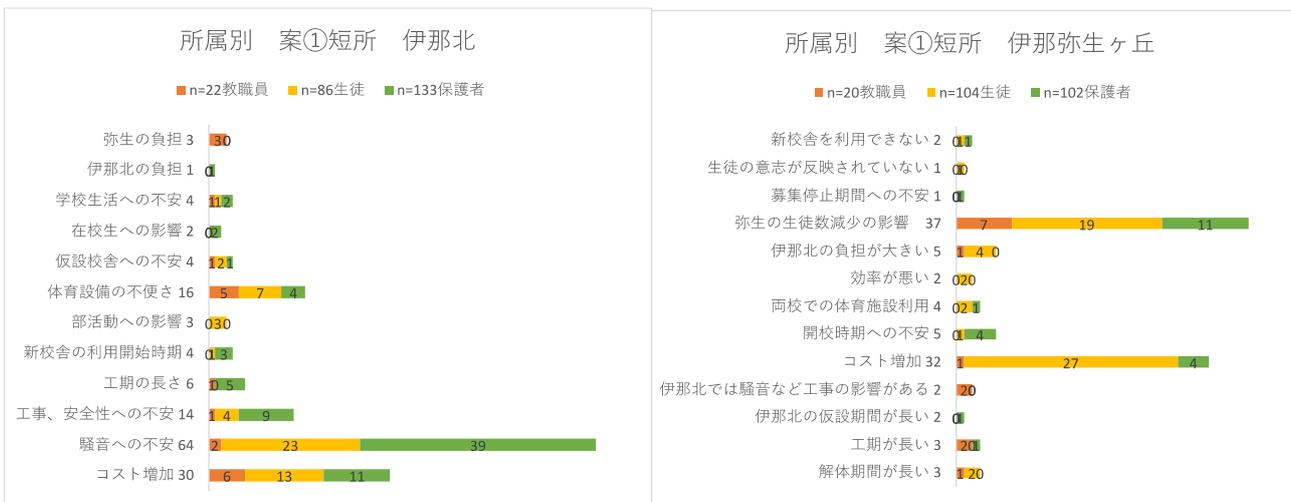


[案①短所 伊那北]

- ・「騒音への不安」(64)が最も多く、特に保護者(39)の不安が多い。
- ・次いで、「コスト増加」(30)への心配も見られる。

[案①短所 伊那弥生ヶ丘]

- ・「弥生の生徒数減少の影響」(37)と「コスト増加」(32)への心配が多い。



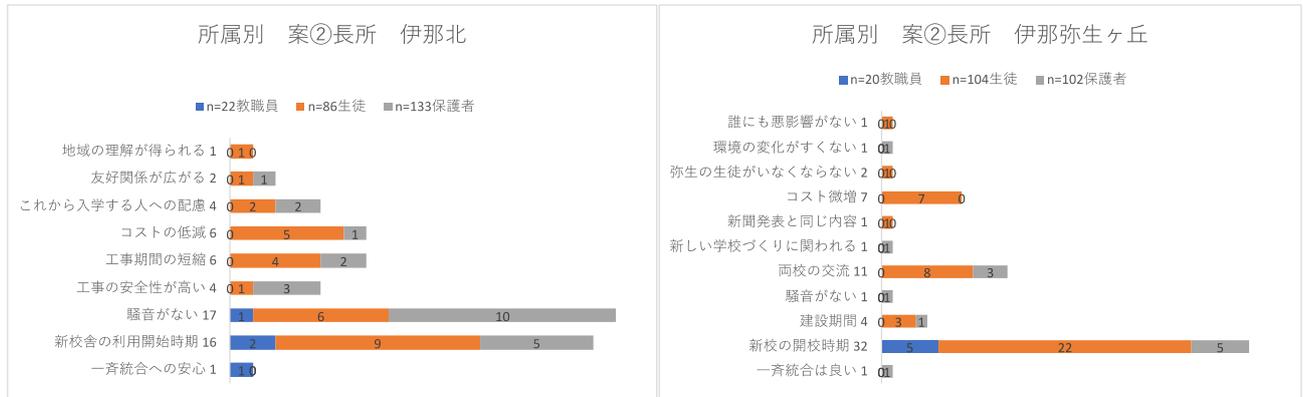
5. クロス集計結果 「1.所属」と「4. 案②(案③の1年前倒し案)の良い・悪いポイント」

[案②長所 伊那北]

- ・「騒音がない」(17)、「新校舎の利用開始時期」(16)が長所としてあげられる。

[案②長所 伊那弥生ヶ丘]

- ・「新校舎の開校時期」(32)が長所として最も多く、生徒からの意見が多い。

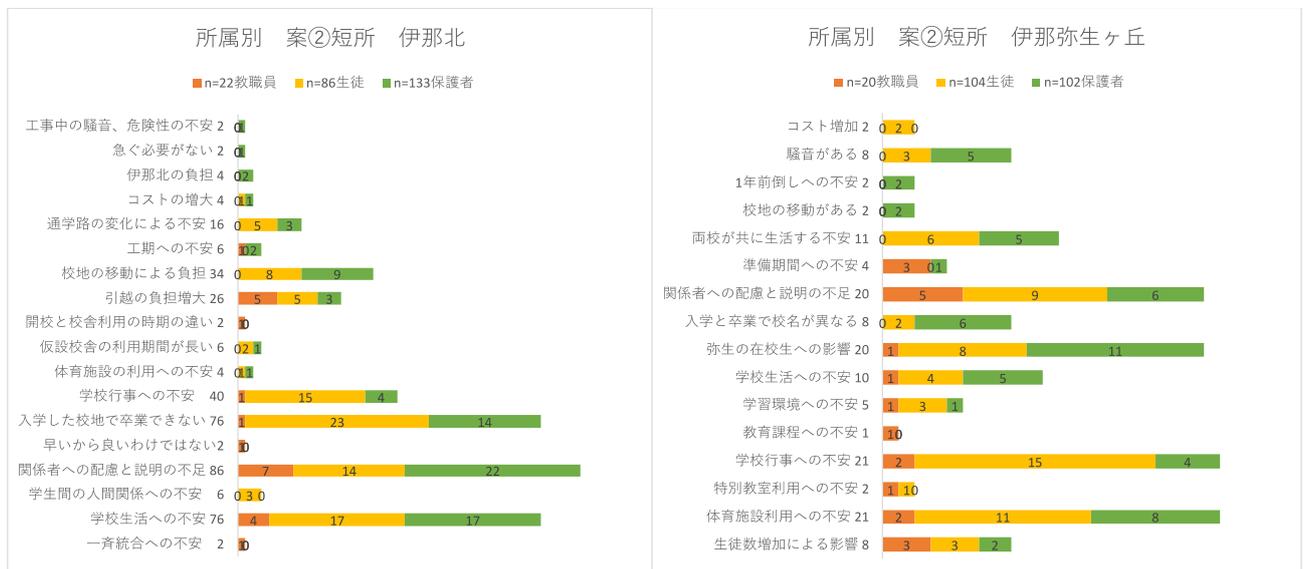


[案②短所 伊那北]

- ・「関係者への配慮と説明の不足」(86)が最も多い。
- ・次いで、「入学した校地で卒業できない」(76)、「学校生活への不安」(76)への心配も多い。

[案②短所 伊那弥生ヶ丘]

- ・「学校行事への不安」(21)、「体育施設利用への不安」(21)、「関係者への配慮と説明の不足」(20)、「弥生の在校生への影響」(20)が多い。



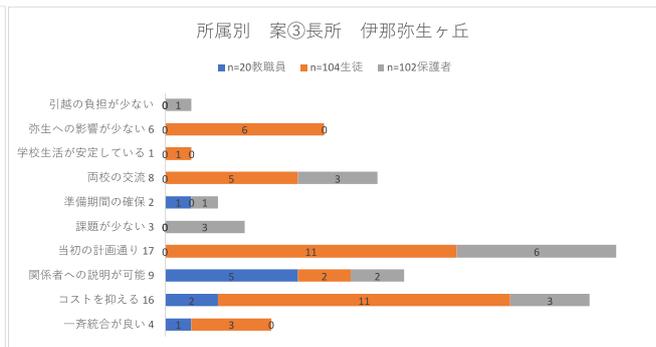
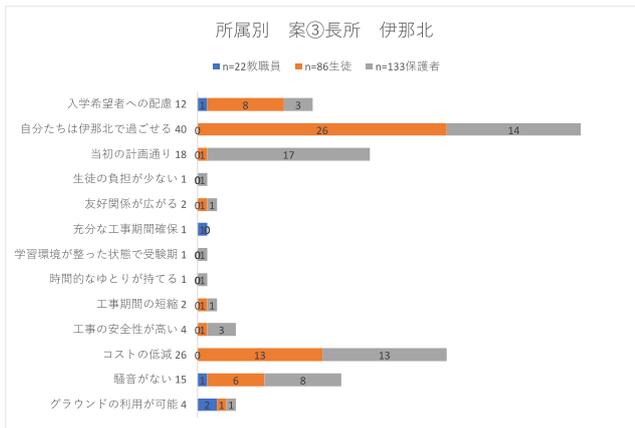
6. クロス集計結果 「1.所属」と「5. 案③(3月懇話会提案)の良い・悪いポイント」

[案③長所 伊那北]

- ・「自分たちは伊那北で過ごせる」(40)と、「コストが抑えられる」(26)ことが長所としてあげている。
- ・次いで、「当初の計画通り」(18)が保護者で多く、「騒音がない」(15)も多い。

[案③長所 伊那弥生ヶ丘]

- ・「当初の計画通り」(17)、「コストを抑えられる」(16)ことを長所としてあげており、生徒から意見が多い。

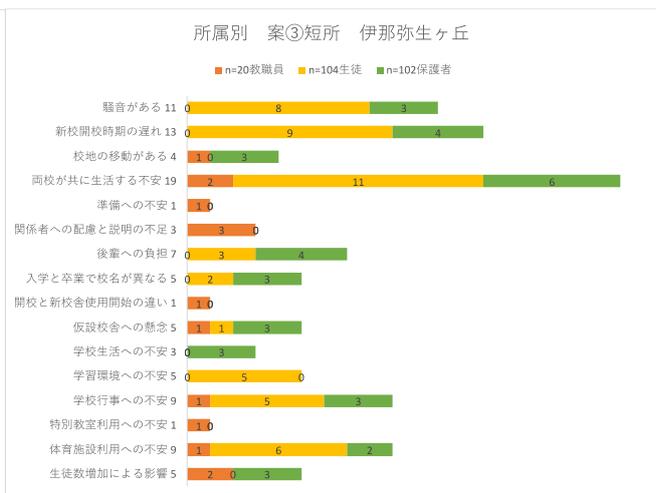
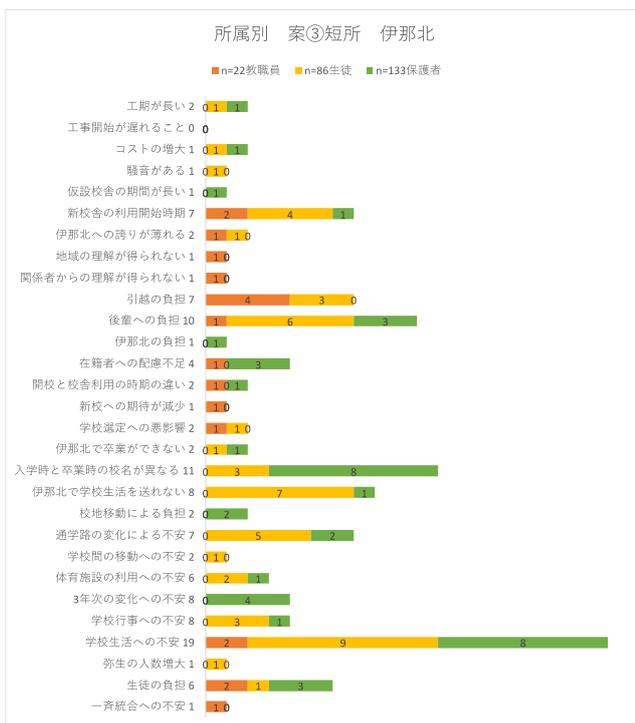


[案③短所 伊那北]

- ・意見の傾向が多岐に分かれている。「学校生活への不安」(19)が最も多い。
- ・次いで、「入学時と卒業時の校名が異なる」(11)、「後輩への負担」(10)に関する心配をあげている。

[案③短所 伊那弥生ヶ丘]

- ・「両校が共に生活する不安」(19)が最も多く、次いで、「新校開始時期の遅れ」(13)が多い。
- ・また、「騒音がある」(11)は、仮設校舎工事への騒音の不安をあげている。



7. アンケートの自由記述回答について（主な意見のまとめ）

【伊那北高校】

（1 学年生徒）

- ・ 案②(案③の 1 年前倒し案)の 3 年生での校地変更に対する不安や不満が強く表れている。
- ・ 校舎整備等スケジュールについての説明が不十分であることに不満が表れている。
- ・ 新校舎建設に伴う工事による受験や学校行事、クラブ活動に与える影響を心配している。
- ・ 特に騒音や仮設校舎での不便、学習環境の変化を懸念している。

（1 学年保護者）

- ・ 「在校生の学習環境と安心を最優先にしてほしい」という意見が共通した要望である。
- ・ 入学時に説明された通り、現在の学校で卒業できることを望む意見が多い。
- ・ 特に、学校名や環境の変化が生徒のモチベーションに影響を与える可能性を心配している。

（教職員）

- ・ 現在の生徒の学習環境を最優先にするべきという意見が多い。
- ・ 仮設校舎や新校舎の建設・利用にあたって、生徒と教職員の快適性や健康、安全が確保されるよう配慮が必要である。
- ・ 特に、仮設校舎に必要な設備（例：保健室）の設置や、仮設校舎でも適切な学習環境を維持することが重要視されている。
- ・ 建設予算内での最大限の騒音、振動に対する安全性の保障を求める要望が多い。

【伊那弥生ヶ丘高校】

（1 学年生徒）

- ・ 将来の入学生に対する配慮を含めて案①が良いという意見が多い。
- ・ 工事計画や新校舎の進捗状況について、両校への説明と情報提供を早急に行って欲しいという意見も多い。

（1 学年保護者）

- ・ 生徒の学習環境や生活に与える影響を最小限に抑えるために、彼らの意見を尊重することを求める意見が多い。
- ・ 入学前の十分な説明を求める意見が多い。

（教職員）

- ・ 進捗状況など情報公開を求める意見が多い。
- ・ 工事の振動や騒音への懸念、新校舎の完成と開校のタイミングを一致させるべきだという意見などがあった。

懸念事項 騒音

1、発生音の状況

大型重機を使用する解体工事等の騒音規制値 **85dB**
 (敷地境界での基準)

参考

- 一般的な地盤調査 (ボーリング) の騒音55~60dB程度
- 蝉の鳴き声70dB
- 救急車のサイレン **85dB**

騒音レベル dB(A)	30	40	50	60	70	80	90	100
騒音環境								
騒音感覚	静か	日常生活で望ましい範囲	うるさい	きわめてうるさい				

2、サッシによる音の遮音効果

新校舎については窓だけでなく壁も高性能なため、窓を閉めることで一定の遮音効果が得られます。
 (複層ガラス以上を予定)

遮音効果

ガラスの種類	厚さ	室外騒音	遮音効果	室内騒音
ふつうの複層ガラスの場合...	[3ミリ/12ミリ/3ミリ]	80dB	-40	40dB
異厚複層ガラス	[5ミリ/12ミリ/3ミリ]	80dB	-43	37dB
安全合わせ複層ガラス (防音タイプ)	[3ミリ+中間膜30mil+3ミリ/10ミリ/4ミリ]	80dB	-46	34dB

※[室外側ガラスの厚さ/中空層の厚さ/室内側ガラスの厚さ]
 ※上記は、周波数1,600Hzの場合 出典：AGC株式会社 板ガラス建材総合カタログ【技術資料編】より板ガラスの透過損失データ

3、工事上の工夫

- 2027.10~ 西棟共用開始
- 2027.10~ 仮設校舎Ⅱ使用開始
- 2027.10~2029.04 既存校舎Ⅱ解体

新校舎
 解体する北校舎と距離が近い比較的防音性のある仕様で新築

仮囲い、防音シート
 解体工事、新築工事とも、仮囲いや防音シート等で防音対策を行う
 ※振動は防げない

※毎日、毎時間ではないが、特に工事範囲に近い場所では継続的に学習環境を阻害する程度の騒音は十分予想される

4、解体工事の参考動画



コンクリート構造の解体現場の様子



「はつり工事」特に南校舎の外壁は全面をはつる工事が出来る可能性が高いです。

